

世界の 都市総合力 ランキング

Global Power City Index 2015

概要版



2015年10月

「世界の都市総合力ランキング」(Global Power City Index, GPCI)は、地球規模で展開される都市間競争下において、より魅力的でクリエイティブな人々や企業を世界中から惹きつける、いわば都市の“磁力”こそが「都市の総合力」であるとの観点に立ち、世界の主要都市の総合力を評価し、順位付けしたものである。

森記念財団 都市戦略研究所は、2008年に初めてGPCIを発表して以来、毎年、新たな調査をもとに、そのランキングを更新してきた。現在では、代表的な都市指標の一つとして高い評価を得ており、国や東京都のみならず世界のさまざまな場所で都市政策やビジネス戦略の参考資料として用いられている。

さらに、当研究所では国際会議や講演などを通じて、世界の主要な研究機関とも、都市やその競争力をテーマに活発な意見交換を行っている。

GPCIは情報の更新やデータ収集法の見直しを通じて常に改良に努めている。GPCI-2015では、これまで入手困難であるためアンケート等で代替していたいくつかの指標データについて、新たに定量データの発掘を行い、より実態に即した評価を行うことが可能となった。

過去8年間におよぶ研究成果は、世界の諸都市が持つ魅力や課題を理解するための貴重なデータとなるはずである。この調査結果が、さらに多くの人々によって都市政策や企業戦略の立案に役立てられることを期待したい。

※なお、本ランキングの詳細な調査結果は『世界の都市総合力ランキング YEARBOOK 2015』として2015年12月に発刊を予定している。そこでは、調査方法、各都市ごとのスコア・順位の分析、指標の定義、データ・ソース一覧等を詳細に掲載しているので、ぜひご参照いただきたい。

世界の都市総合力ランキング(GPCI)の特徴

1. 特定分野(「金融」や「住みやすさ」等)ではなく、都市の力を表す様々な分野を対象として都市の総合力を評価したランキングである。
2. 世界を代表する主要40都市を選定し、都市の力を表す主要な6分野(**経済、研究・開発、文化・交流、居住、環境、交通・アクセス**)と、さらに現代の都市活動を牽引する4つのグローバル・アクター(**経営者、研究者、アーティスト、観光客**)ならびに都市の**生活者**という5つのアクターの視点に基づき、複眼的に都市の総合力を評価している。
3. 各都市の強みや弱みを明らかにしながら、克服すべき課題を明らかにしている。
4. 都市研究に関する世界的権威であった故・ピーターホール卿をはじめとする学識者によって立案され、各界の有識者の参画と、国際的な専門家によるピアレビュー(第三者評価)を得たランキングである。

このレポートでは、6分野と5アクターは**太字**、指標グループ名およびアクター要素名は「」、指標名は斜体で示している。

1. GPCI-2015で明らかになった主なポイント

Key Findings

- ◆ 上位3位では、ロンドン、ニューヨーク、パリがその地位を確固としたものになっている。特に、総合ランキング1位のロンドンは、2012年のオリンピック以降も着実にスコアを伸ばしており、2位のニューヨークとの差をますます広げている。
- ◆ 東京は最初のGPCIの発表(2008年)以来、4位を維持している。環境、交通・アクセス、居住においてやや伸び悩んでいるが、文化・交流では、訪日外国人数の増加などの影響により6位から5位へと順位を上げた。

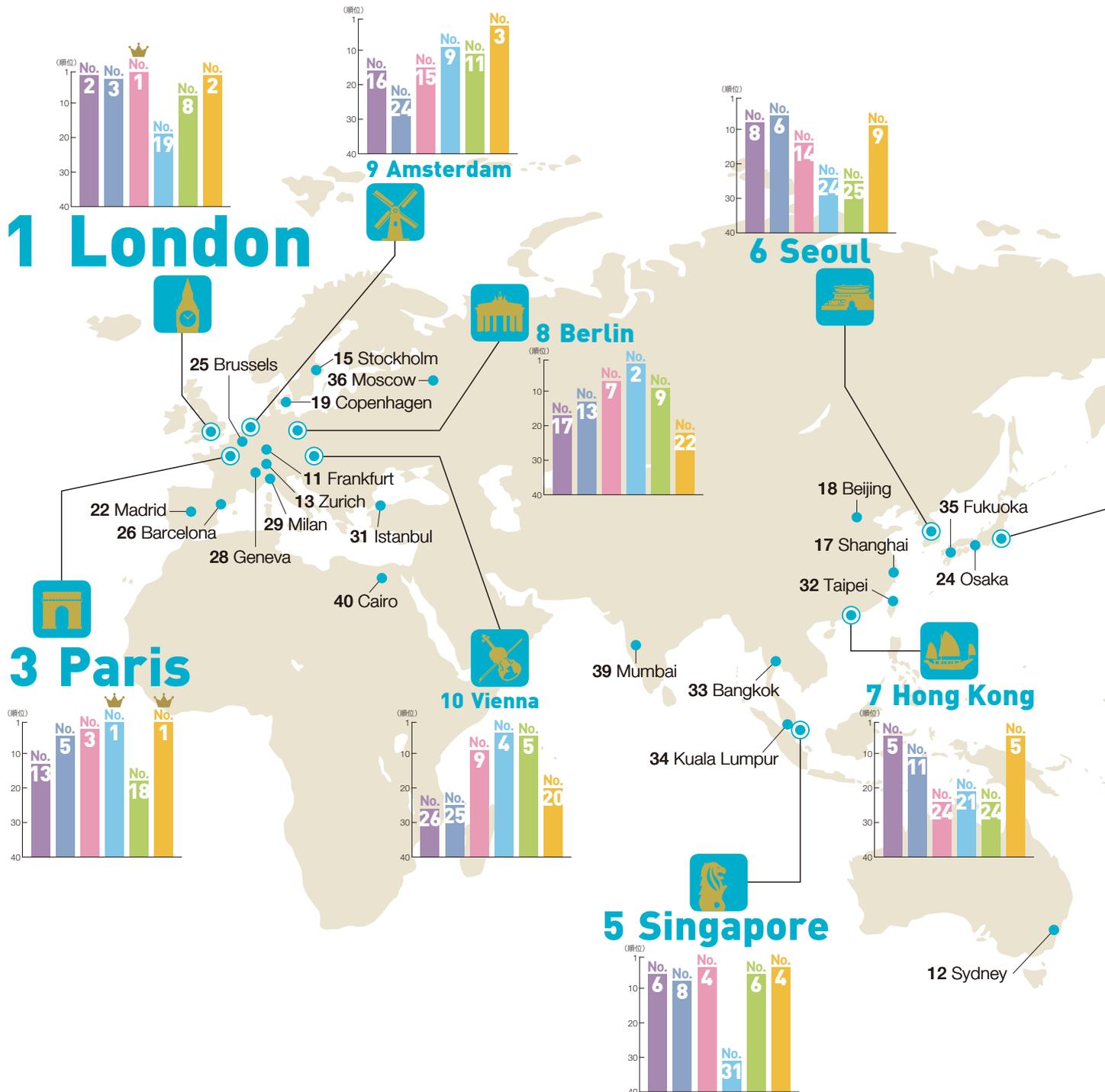


図1-1 トップ10都市における分野別順位グラフ

1-1 分野別ランキング



経済

東京(1位)、ロンドン(2位)、ニューヨーク(3位)が、「市場の規模」や「ビジネスの容易性」で高スコアを得て、上位にランクインした。

昨年4位だったロンドンはGDP成長率、法人税率でスコアを上げ、今年は2位となった。反対に、北京は政治・経済・商機のリスクでスコアを落としたものの、GDP、世界のトップ300企業の指標ではスコアを伸ばし続けており、3位のニューヨークに肉薄している。優秀な人材の確保の容易性では、北米の各都市、ロンドン、シンガポールといった英語圏の都市が優れた評価を得ている。



研究・開発

ニューヨーク(1位)がスコアで突出しており、これに東京、ロンドン、ロサンゼルスが続いている。

ロサンゼルス(4位)には、カリフォルニア工科大学など世界有数の教育機関が所在し、世界トップ200大学、主要科学技術賞受賞者数、研究者数、研究開発費で高い評価を得ている。イスタンブールは、外国人研究者の受入態勢など「研究環境」に関する評価を伸ばし、昨年の30位から21位へ順位を上げた。



文化・交流

文化・交流のトップ5都市は、ロンドン、ニューヨーク、パリ、シンガポール、東京の順となった。ロンドン(1位)は、全ての指標で高評価を得ており、2位以下の都市を大きく引き離している。

ニューヨーク(2位)は「交流・文化発信力」において、パリ(3位)は「受入環境」において評価が高い。シンガポール(4位)は「交流実績」で他の都市を圧倒している。

東京は、海外からの訪問者数と留学生数などで大きくスコアを伸ばし、昨年の6位から5位へと順位を上げた。この分野で、東京はGPCI-2013の8位から着実に順位を上げている。



居住

居住では、ヨーロッパおよびカナダの都市の順位が高い。特に総合ランキングで20位以下のバンクーバー、バルセロナ、ジュネーブが、居住ではそれぞれ3位、5位、6位とトップ10にランクインしている。これらの都市は、「生活環境」および「安全・安心」で評価が高い。

経済や文化・交流で上位に位置しているロンドン、ニューヨーク、東京は、居住での順位は相対的に低い(それぞれ19位、23位、15位)。これは、経済や文化機能が都市に集積しているため、賃貸住宅平均賃料や物価水準といった「居住コスト」が高くなり、居住のスコアを下げているからである。パリは、「居住コスト」がロンドン、ニューヨーク、東京ほど高くなく、また、総労働時間の短さが高く評価され、昨年同様1位となった。



環境

上位5位はすべてヨーロッパの都市(ジュネーブ、フランクフルト、ストックホルム、チューリッヒ、ウィーン)が占める。CO₂排出量やリサイクル率、再生可能エネルギーの比率で高い評価を得ており、環境政策の先進性がうかがえる。

昨年の23位から7位となったバンクーバーは、SPM濃度の低さなど、他の北米都市より突出して評価が高い指標も多く、これらが順位上昇に寄与した。





交通・アクセス

最初のGPCI発表(2008)以降、**交通・アクセス**ではロンドンとパリが首位を争ってきたが、今年はパリが1位となった。これは、一部の指標の定義変更によるものと、人口当たり交通事故死亡者数の増加など、ロンドンの評価が全体的に下がったためである。ロンドンは国際線直行便就航都市数と国際線旅客数の2つの指標において、GPCI-2008以降、8年連続で1位を維持している。

新たに船舶貨物量を集計対象に加えた**国際貨物流通規模**は、香港が1位、上海が2位という結果になった。アムステルダムとシンガポールは、**国際線直行便就航都市数**と**国際貨物流通規模**の両方で高い評価を得て、**交通・アクセス**ではそれぞれ3位、4位となった。



1-2 アクター別ランキング



経営者

ロンドン(1位)、シンガポール(2位)、香港(3位)が昨年と同じ順位を維持した。シンガポールと香港は、ロンドンとのスコア差を昨年よりも縮めた。

ニューヨークとパリは「ビジネスの成長性」でスコアを伸ばし、それぞれ、6位から4位、8位から6位へと順位を上げた。一方、上海は5位から7位へ、イスタンブールは7位から15位へと順位を落とした。



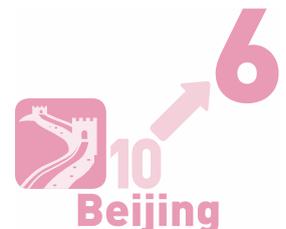
研究者

研究者からの評価はニューヨーク(1位)が高く、ロンドン(2位)は「質の高い研究機関・研究者・指導者の存在」などの要素でスコアを上げ、東京(3位)との差を広げた。サンフランシスコは、**研究者**が重視する要素全般で評価を上げ、8位から6位へ順位を上げた。ソウルは北米の各都市などがスコアを上げたことに伴い、7位から10位へ順位を落とした。



アーティスト

パリ(1位)、ニューヨーク(2位)、ロンドン(3位)、ベルリン(4位)が、5位以下を大きく引き離している。ニューヨークは「マーケットの存在」でスコアを伸ばし、今年ロンドンを抜いた。ベルリンは「創作環境」や「文化的刺激」のスコアを伸ばしたものの、4位に留まる結果となった。一方、北京は、「アーティストの集積」において大きくスコアを伸ばし、10位から6位へ順位を上げた。



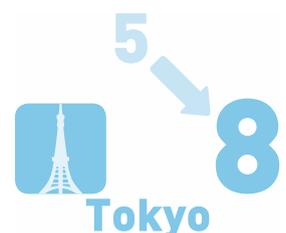
観光客

観光客からの評価は、ロンドン(1位)、パリ(2位)、ニューヨーク(3位)、イスタンブール(4位)、シンガポール(5位)の順に高い。5位のシンガポールは、「一定水準以上の宿泊施設」「観光の対象の存在」「食事」で上位にランクインし、昨年9位から大幅に順位を上昇させた。クアラルンプールは、「安全」などでスコアを伸ばし、34位から22位へ順位を上げた。



生活者

パリ(1位)、ロンドン(2位)、ニューヨーク(3位)に続き、チューリッヒ(4位)、フランクフルト(5位)、ベルリン(6位)のヨーロッパの都市が上位にランクインした。これらヨーロッパの都市は共通して、「就業環境」と「医療水準」の評価が高い傾向がある。その一方で東京は、全体的にスコアが伸ばせず、5位から8位へと順位を落とした。



2.GPCI-2015の作成方法

2-1 策定体制

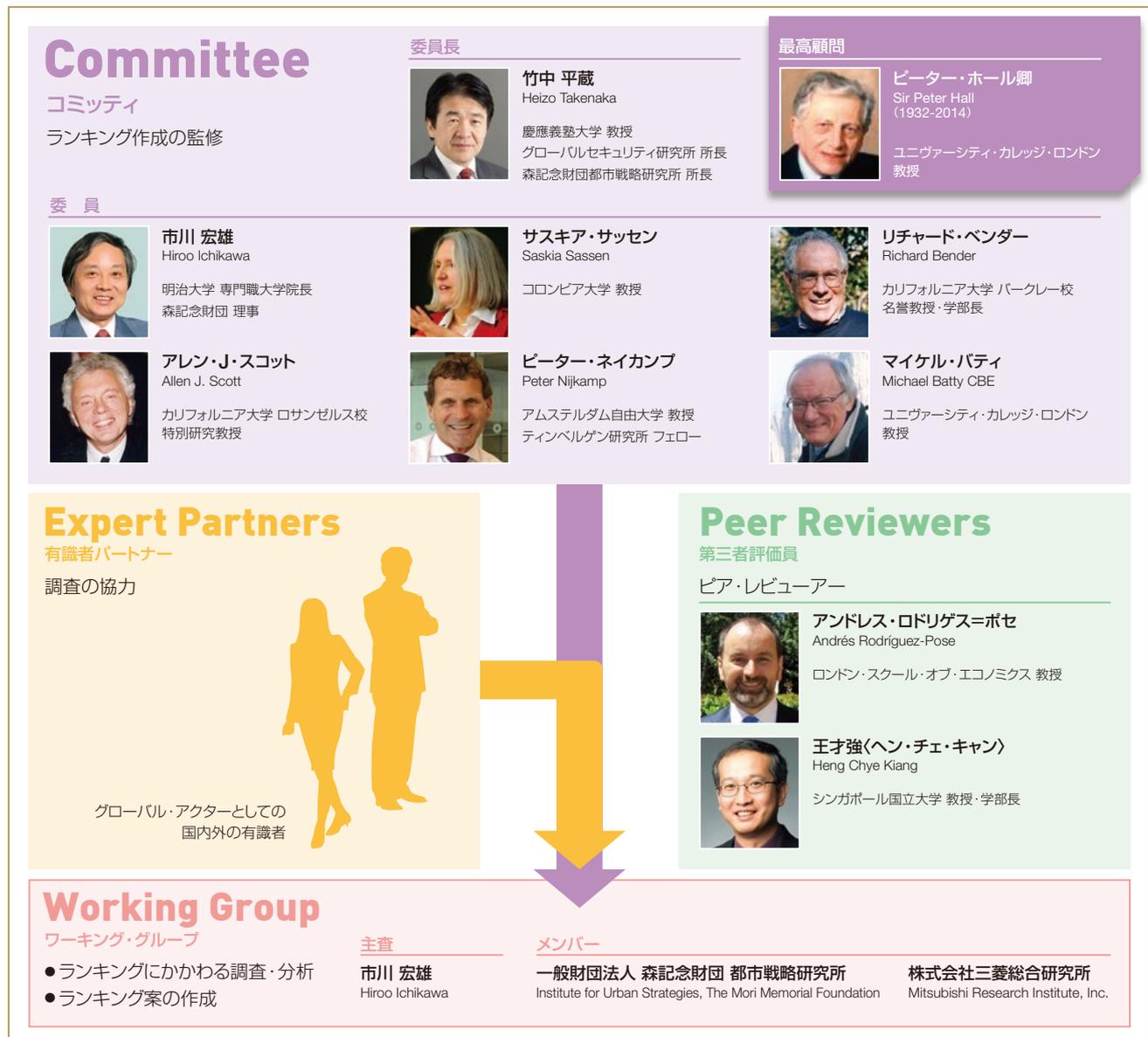
本ランキングは、世界都市の分野での権威がメンバーとして監修を行うコミッティと具体的な分析作業を行うワーキング・グループによって作成されている。コミッティは森記念財団都市戦略研究所の所長・竹中平蔵(慶應義塾大学教授・グローバルセキュリティ研究所所長)を委員長とし、故・ピーター・ホール卿(ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン教授)を最高顧問として他に6人のメンバーで構成されている。

ワーキンググループは、市川宏雄 森記念財団理事/明治

大学専門職大学院長・教授を主査としてデータ収集や分析作業を重ねランキングを作成している。作成にあたってはグローバル・アクターとしての国内外の有識者からの意見聴取も行い、評価の妥当性と公平性を保つ努力をしている。

なお、こうしたランキングの作成過程および結果の妥当性については、2名の第三者評価者(ピア・レビューアー)に評価を依頼し、内容の点検および改善点の指摘を受けている。

図2-1 策定体制



※ 本年より、策定組織に変更があった。まず、GPCI-2014までピア・レビューアーを務めたアレン・J・スコット(カリフォルニア大学特別研究教授)、同じくピーター・ネイカンブ(アムステルダム自由大学教授・ティンベルゲン研究所フェロー)、そして新たにマイケル・バティ(ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン教授)がコミッティ・メンバーに就任した。さらに、アンドレス・ロドリゲス=POSE(ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス教授)と王才強(ヘン・チェ・キャン)(シンガポール国立大学教授・学部長)がピア・レビューアーとなった。

2-2 対象都市

図2-2 対象40都市



エリア	都市
ヨーロッパ	マドリッド、バルセロナ、ロンドン、パリ、ブリュッセル、アムステルダム、ジュネーブ、フランクフルト、ベルリン、チューリッヒ、ミラノ、コペンハーゲン、ウィーン、ストックホルム、イスタンブール、モスクワ
アフリカ	カイロ
アジア	ムンバイ、バンコク、クアラルンプール、シンガポール、香港、北京、上海、台北、ソウル、福岡、大阪、東京
オセアニア	シドニー
北米	バンクーバー、サンフランシスコ、ロサンゼルス、シカゴ、トロント、ワシントンD.C.、ニューヨーク、ボストン
中南米	メキシコシティ、サンパウロ

(都市の選定基準)

- 既存の有力な都市比較ランキング(The Global Financial Centres Index、Global Cities Index、Cities of Opportunity)で上位10位に入っている都市
- 有力な国際競争力ランキング(World Economic Forumおよび International Institute for Management Development作成)において競争力上位10位に入っている国の主要都市
- 本ランキングを作成するコミッティまたはワーキング・グループから、対象都市として取り上げることが適切として判断された都市

※ただし、上記の基準を満たすものの、データの入手が困難であることから、GPCIの対象都市に含まれていない都市もある。

3. 分野別ランキング結果

3-1 ランキングの作成方法

図3-1 分野別ランキングの作成フロー



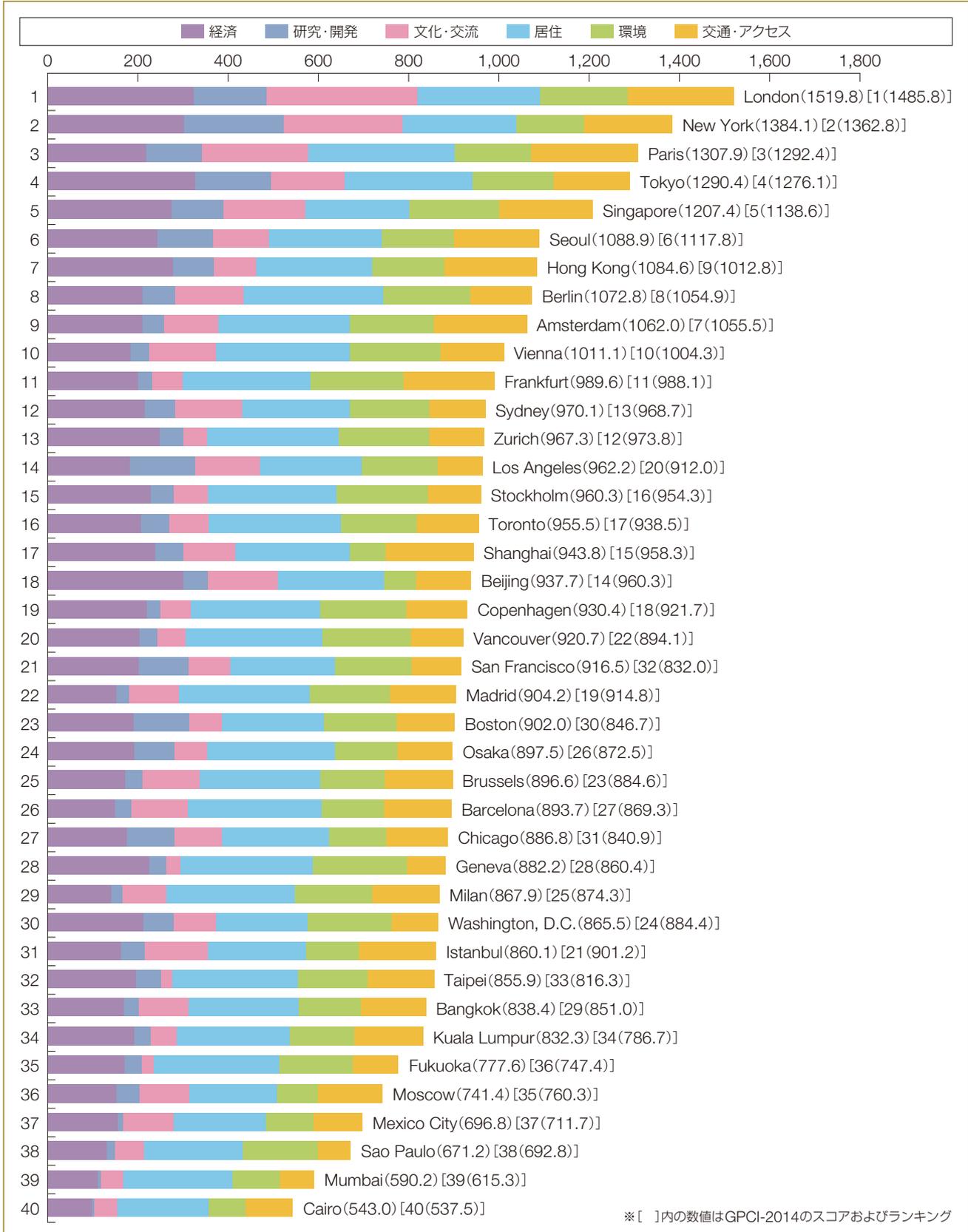
世界の都市総合カランキング(GPCI)では、6分野(経済、研究・開発、文化・交流、居住、環境、交通・アクセス)それぞれにおいて、主要な要素を表す「指標グループ」を設定し、さらに

それらを構成する指標を70選定した。各指標をスコア化した上で、指標グループのスコアを算出し、分野別ランキングを作成した。分野別総合ランキングは、それらを総合して作成した。



3-2 分野別総合ランキング

図3-2 分野別総合ランキング結果



3-3 分野別ランキング

表3-1 分野別ランキング

ランク	 経済	 研究・開発	 文化・交流	 居住	 環境	 交通・アクセス
1	Tokyo 326.7	New York 221.2	London 333.4	Paris 323.8	Geneva 208.1	Paris 236.9
2	London 323.6	Tokyo 167.8	New York 263.5	Berlin 310.1	Frankfurt 205.5	London 234.0
3	New York 302.2	London 161.9	Paris 236.0	Vancouver 302.3	Stockholm 205.0	Amsterdam 207.0
4	Beijing 300.8	Los Angeles 145.0	Singapore 180.3	Vienna 297.8	Zurich 200.9	Singapore 206.7
5	Hong Kong 277.6	Paris 124.2	Tokyo 164.5	Barcelona 296.1	Vienna 198.3	Hong Kong 205.0
6	Singapore 274.5	Seoul 122.7	Beijing 153.9	Geneva 294.1	Singapore 197.5	Frankfurt 201.9
7	Zurich 247.3	Boston 122.3	Berlin 151.5	Toronto 292.2	Vancouver 196.6	Shanghai 195.2
8	Seoul 243.2	Singapore 116.1	Sydney 147.9	Zurich 292.1	London 194.2	New York 194.2
9	Shanghai 239.6	San Francisco 109.6	Vienna 147.4	Amsterdam 290.8	Berlin 191.9	Seoul 189.5
10	Stockholm 227.7	Chicago 104.4	Los Angeles 144.0	Madrid 289.4	Copenhagen 191.6	Istanbul 171.3
11	Geneva 225.0	Hong Kong 91.1	Istanbul 141.2	Copenhagen 286.9	Amsterdam 186.6	Tokyo 169.9
12	Copenhagen 221.3	Osaka 88.4	Brussels 128.3	Milan 284.9	Washington, D.C. 185.7	Kuala Lumpur 153.4
13	Paris 217.5	Berlin 72.3	Barcelona 125.9	Stockholm 283.5	Tokyo 178.8	Brussels 149.4
14	Sydney 214.5	Sydney 67.9	Seoul 124.9	Frankfurt 283.0	Madrid 177.0	Barcelona 147.9
15	Washington, D.C. 211.3	Washington, D.C. 67.6	Amsterdam 119.0	Tokyo 282.8	Sydney 176.9	Milan 147.3
16	Amsterdam 210.3	Shanghai 62.8	Shanghai 113.2	Osaka 280.8	Milan 172.2	Madrid 145.9
17	Berlin 210.2	Toronto 61.9	Mexico City 113.2	Taipei 278.4	San Francisco 170.3	Taipei 145.8
18	Toronto 207.1	Beijing 55.1	Madrid 111.6	Fukuoka 276.6	Paris 169.5	Bangkok 143.5
19	Vancouver 204.4	Taipei 55.1	Bangkok 109.7	London 272.7	Toronto 168.2	Moscow 143.3
20	San Francisco 203.4	Zurich 53.3	Moscow 109.0	Brussels 265.8	Los Angeles 167.9	Vienna 141.7
21	Frankfurt 201.6	Istanbul 52.4	Chicago 105.6	Hong Kong 256.9	Sao Paulo 165.9	Toronto 137.5
22	Taipei 195.1	Moscow 52.1	Milan 98.0	Shanghai 254.4	Fukuoka 164.2	Berlin 136.8
23	Osaka 192.7	Stockholm 50.9	Washington, D.C. 94.9	New York 250.8	Boston 161.9	Chicago 136.0
24	Kuala Lumpur 191.8	Amsterdam 48.4	Hong Kong 93.5	Seoul 250.4	Hong Kong 160.5	Copenhagen 135.0
25	Boston 190.9	Vienna 43.0	San Francisco 92.0	Kuala Lumpur 247.8	Seoul 158.2	Boston 127.7
26	Vienna 182.9	Fukuoka 39.7	Toronto 88.7	Bangkok 244.6	Taipei 156.1	Sydney 124.1
27	Los Angeles 181.6	Vancouver 39.2	Stockholm 76.6	Mumbai 242.6	New York 152.3	Beijing 122.1
28	Chicago 175.9	Geneva 37.5	Osaka 73.6	Sydney 238.7	Kuala Lumpur 143.9	Zurich 121.9
29	Brussels 173.2	Kuala Lumpur 37.1	Boston 72.9	Chicago 237.5	Brussels 143.2	Osaka 121.7
30	Fukuoka 169.2	Brussels 36.7	Copenhagen 67.3	Beijing 236.1	Osaka 140.2	Stockholm 116.6
31	Bangkok 169.1	Barcelona 36.1	Frankfurt 66.3	Singapore 232.3	Barcelona 138.5	Vancouver 114.8
32	Istanbul 162.6	Bangkok 33.1	Vancouver 63.4	San Francisco 231.6	Bangkok 138.4	San Francisco 109.6
33	Mexico City 156.5	Frankfurt 31.3	Sao Paulo 63.4	Boston 226.2	Chicago 127.3	Mexico City 107.3
34	Madrid 153.2	Copenhagen 28.3	Kuala Lumpur 58.3	Los Angeles 225.1	Istanbul 115.8	Cairo 103.8
35	Moscow 152.3	Madrid 27.1	Zurich 51.8	Sao Paulo 219.5	Mexico City 106.4	Washington, D.C. 103.8
36	Barcelona 149.2	Milan 23.5	Cairo 50.1	Istanbul 216.8	Mumbai 105.4	Fukuoka 100.6
37	Milan 142.0	Sao Paulo 16.2	Mumbai 47.6	Mexico City 203.6	Moscow 88.9	Los Angeles 98.7
38	Sao Paulo 133.1	Mexico City 9.9	Geneva 31.8	Cairo 202.6	Cairo 83.1	Geneva 85.7
39	Mumbai 111.7	Mumbai 7.8	Fukuoka 27.3	Washington, D.C. 202.1	Shanghai 78.6	Mumbai 75.1
40	Cairo 98.5	Cairo 4.9	Taipei 25.5	Moscow 195.8	Beijing 69.7	Sao Paulo 73.2

4.アクター別ランキング結果

4-1 ランキングの作成方法

図4-1 アクター別ランキングの作成フロー

		アクター				
		経営者	研究者	アーティスト	観光客	生活者
		重視する要素				
		<ul style="list-style-type: none"> ① 企業や商取引等の一定以上の集積 ② ビジネスの成長性 ③ ビジネスの容易性 ④ ビジネス環境 ⑤ 人材プール（人材の豊富さ） ⑥ 関連サポート産業の集積 ⑦ 家族及び従業員にとっての良好な環境 ⑧ 政治・経済・災害リスク 	<ul style="list-style-type: none"> ① 質の高い研究機関・研究者・指導者の存在 ② 研究機関や研究者の集積 ③ 研究活動における発想や思考に対して刺激となる空間・機会の存在 ④ 研究者受入態勢（研究費助成や生活費補助など） ⑤ 自らの研究分野における就業機会 ⑥ 日常生活の環境（住みやすさ） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 文化的刺激 ② アーティストの集積 ③ マーケットの存在 ④ 創作環境（スタジオ、アトリエ賃料、広さなど） ⑤ 日常生活の環境（住みやすさ） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 文化的魅力や接触機会 ② 安全 ③ 観光の対象の存在（施設、文化等） ④ 一定水準以上の宿泊施設 ⑤ 食事（選択肢や値段等） ⑥ 買物（環境や値段、魅力等） ⑦ 目的地までの移動の利便性（所要時間、運賃等） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 購買環境（物価、商品の得やすさ等） ② 生活環境（住環境などの日常生活のしやすさ等） ③ 就業環境（収入、雇用機会等） ④ 教育環境 ⑤ 余暇活動 ⑥ 安全 ⑦ 医療水準
分野	経済	13	2	2	—	5
	研究・開発	2	7	—	—	2
	文化・交流	7	8	7	12	8
	居住	13	10	9	6	12
	環境	6	5	5	—	8
	交通・アクセス	10	4	3	8	5
		51 指標	36 指標	26 指標	26 指標	40 指標
		経営者スコア	研究者スコア	アーティストスコア	観光客スコア	生活者スコア
アクター別ランキング						

4-2 アクター別ランキング

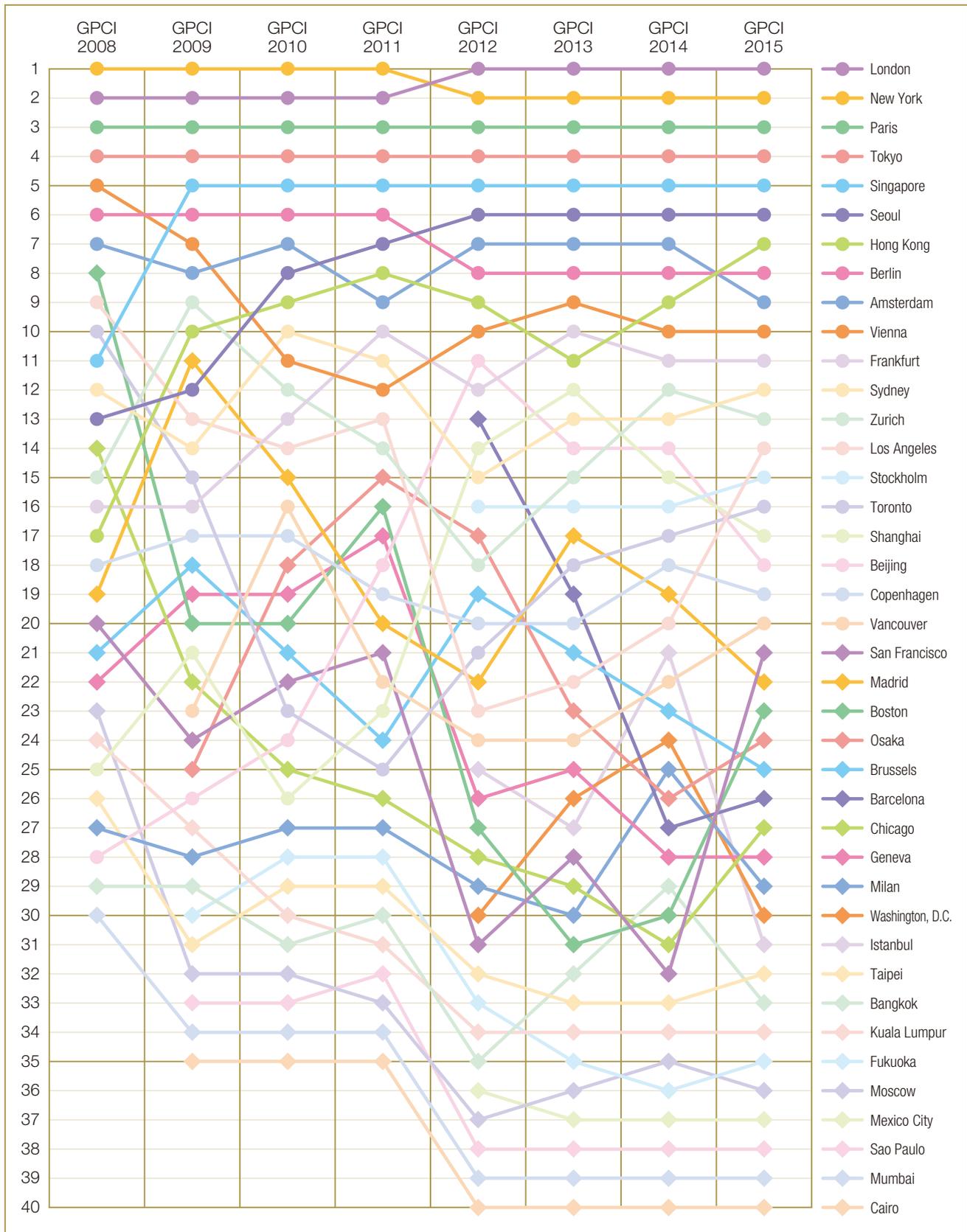
表4-1 アクター別ランキング

ランク	 経営者	 研究者	 アーティスト	 観光客	 生活者					
1	London	61.2	New York	65.7	Paris	53.4	London	58.6	Paris	62.5
2	Singapore	59.7	London	55.5	New York	52.9	Paris	51.1	London	56.6
3	Hong Kong	55.3	Tokyo	53.0	London	49.5	New York	50.9	New York	56.1
4	New York	48.7	Paris	48.7	Berlin	46.2	Istanbul	44.6	Zurich	53.2
5	Beijing	47.6	Los Angeles	44.8	Vienna	46.0	Singapore	43.5	Frankfurt	52.5
6	Paris	46.6	San Francisco	42.4	Beijing	45.5	Tokyo	42.5	Berlin	52.4
7	Shanghai	46.2	Boston	38.9	Los Angeles	43.9	Beijing	42.2	Vienna	51.7
8	Tokyo	46.2	Singapore	37.7	Tokyo	43.1	Shanghai	41.8	Tokyo	51.5
9	Seoul	45.2	Chicago	36.4	Amsterdam	42.6	Bangkok	40.5	Stockholm	50.3
10	Kuala Lumpur	45.1	Seoul	36.3	Barcelona	40.6	Berlin	40.4	Amsterdam	48.8
11	Berlin	42.6	Hong Kong	32.3	Madrid	39.9	Barcelona	39.7	Geneva	48.7
12	Stockholm	41.9	Washington, D.C.	31.7	Mexico City	38.1	Vienna	38.6	Boston	48.4
13	Taipei	41.9	Sydney	31.0	Chicago	37.3	Amsterdam	37.6	Copenhagen	48.0
14	Amsterdam	41.8	Berlin	30.9	Shanghai	37.1	Hong Kong	36.3	Washington, D.C.	47.9
15	Istanbul	40.7	Osaka	30.8	Washington, D.C.	37.0	Madrid	36.1	Milan	47.2
16	Copenhagen	40.6	Beijing	30.7	Toronto	36.5	Seoul	34.6	Vancouver	47.2
17	Zurich	40.3	Toronto	26.8	Vancouver	36.1	Toronto	32.5	San Francisco	46.6
18	Toronto	40.3	Vancouver	25.6	Milan	36.0	Brussels	32.4	Toronto	46.0
19	Vienna	39.6	Zurich	25.5	Stockholm	35.3	Milan	32.3	Hong Kong	45.3
20	Bangkok	39.2	Moscow	25.4	Brussels	35.3	Sydney	31.7	Osaka	45.0
21	Vancouver	39.2	Vienna	25.1	Frankfurt	34.5	Frankfurt	31.5	Sydney	44.7
22	Boston	38.4	Stockholm	25.0	Copenhagen	34.4	Kuala Lumpur	31.1	Brussels	44.3
23	Frankfurt	38.1	Amsterdam	24.0	Istanbul	33.9	Chicago	30.5	Madrid	44.0
24	Geneva	38.1	Geneva	22.8	Osaka	33.4	Mexico City	29.6	Seoul	43.6
25	Osaka	35.5	Copenhagen	21.4	Bangkok	33.4	Osaka	29.4	Singapore	43.2
26	Washington, D.C.	35.2	Shanghai	20.5	San Francisco	33.1	Boston	29.0	Barcelona	43.0
27	Barcelona	35.0	Frankfurt	20.1	Fukuoka	32.6	Vancouver	29.0	Fukuoka	43.0
28	Chicago	34.9	Bangkok	20.1	Sydney	32.2	San Francisco	28.6	Taipei	42.8
29	Sydney	34.8	Madrid	19.9	Sao Paulo	31.9	Washington, D.C.	27.7	Los Angeles	41.9
30	Brussels	34.3	Milan	19.8	Kuala Lumpur	31.9	Zurich	27.5	Beijing	41.1
31	San Francisco	33.6	Fukuoka	19.2	Moscow	31.0	Los Angeles	27.2	Shanghai	41.0
32	Fukuoka	32.7	Istanbul	19.2	Mumbai	30.9	Stockholm	26.7	Chicago	40.1
33	Madrid	32.7	Taipei	19.1	Cairo	30.7	Copenhagen	26.6	Moscow	37.3
34	Los Angeles	32.2	Brussels	18.6	Boston	30.1	Cairo	26.3	Kuala Lumpur	33.6
35	Milan	31.3	Barcelona	17.7	Seoul	29.3	Taipei	25.7	Istanbul	32.9
36	Mumbai	28.5	Mexico City	17.4	Zurich	28.4	Moscow	25.3	Mexico City	32.9
37	Mexico City	26.6	Kuala Lumpur	17.2	Taipei	27.4	Mumbai	23.7	Sao Paulo	32.1
38	Moscow	24.4	Sao Paulo	15.8	Geneva	26.2	Fukuoka	23.1	Bangkok	31.1
39	Sao Paulo	24.3	Mumbai	13.6	Hong Kong	19.6	Geneva	21.8	Mumbai	27.9
40	Cairo	23.2	Cairo	11.6	Singapore	18.9	Sao Paulo	20.5	Cairo	25.8

5. 結果分析

5-1 分野別総合ランキングの変動

図5-1 分野別総合ランキングの変動(GPCI-2008~2015)



5-2 分野別総合ランキングの変動分析



アジア・オセアニア地域の都市は、過去の順位変動の特徴から大きく3つのグループに分けられる。

第一のグループは、東京、シンガポール、ソウルの3都市である。

これらの都市は2012年以降、順位変動がなく、安定的に上位に位置している。ここ数年、着々と順位を上げてきている香港が、このグループに入ることができるかどうか注目される。

第二のグループは、北京と上海である。これらの中国都市は、2012～13年頃を境に上昇基調から下降傾向へと変わりつつある。これまでの順位上昇を牽引していた**経済**がスローダウンしたことと、全体的に低迷してるその他の

分野とが相まって、ここ数年でその総合ランキングを落としてきている。

第三のグループは、大阪、イスタンブール、台北、バンコク、クアラルンプール、福岡、ムンバイの7都市で、相対的に低位かつ下降傾向のグループにある。その個別要因は異なるものの、**文化・交流、居住、環境**などにおいて順位を落としていることが共通の傾向である。



ニューヨークを除く北米・中南米地域の都市は、大きく2つのグループに分けられる。

一つは、ロサンゼルス、トロント、バンクーバー、サンフランシスコ、ボストン、シカゴの北米6都市で、これらの都市



はしばらく下降傾向にあったが、2012年頃から、各都市が徐々に上昇傾向に転じてきており、北米都市が、2008年の世界金融危機から回復しつつあることがうかがえる。

また、カナダの2都市は、アメリカの都市とは対照的に、**居住や環境**において高い評価を得ていることが特徴的である。

一方、ワシントンD.C.、メキシコシティおよびサンパウロは、順位を改善できておらず依然として停滞している。



ヨーロッパ・アフリカ地域の都市は、大きく4つのグループに分けられる。まず、2008年から常にトップ3に入っているロンドンとパリ。

次に、近年安定的に上位に位置し

ているアムステルダム、ベルリン、ウィーン、フランクフルト。さらに、中位安定的な4都市(チューリッヒ、ストックホルム、コペンハーゲン、ミラノ)と、下降傾向の6都市(マドリッド、ブリュッセル、バルセロナ、ジュネーブ、モスクワ、カイロ)の4つに大別される。

全体的に見ると、ヨーロッパの都市は、**居住と環境**において評価が高く、それに加えて、**経済、研究・開発、文化・交流**などの分野における評価の違いによって総合順位が左右される傾向がある。



5-3 トップ4都市の比較

世界の40都市を順位付けしているGPCIであるが、最初のGPCI発表以降、8年間トップ4はロンドン、ニューヨーク、パリ、東京の4都市で変わっていない。

それぞれ強み・弱みはあるものの、圧倒的な総合力を有してトップ4を維持し続けている。ここでは、これらの都市を比較する。

図5-2 分野別比較

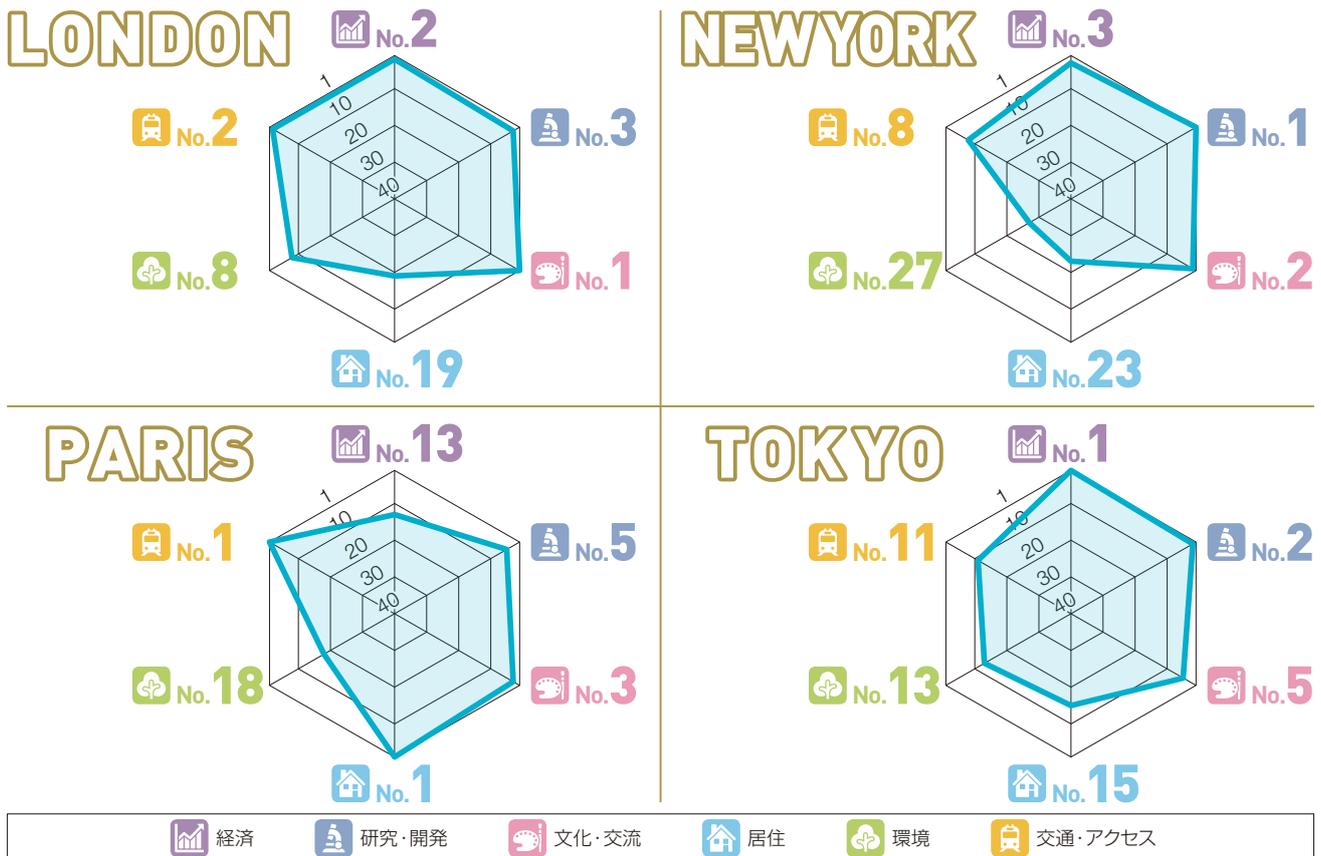
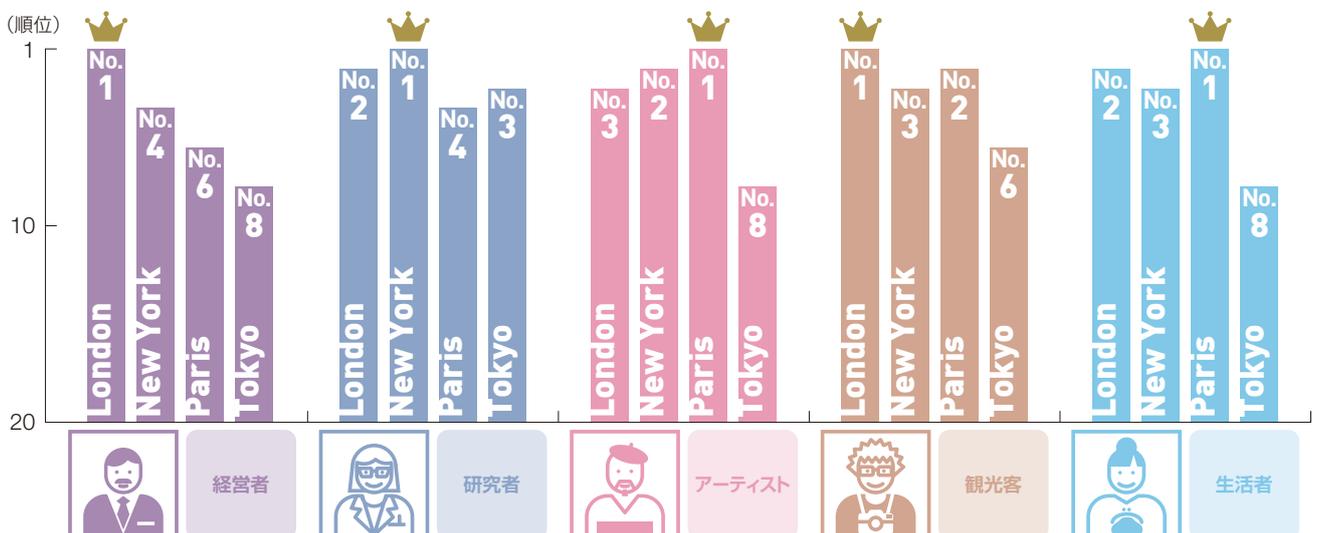


図5-3 アクター別比較





オリンピック後も成長を続ける世界都市 **ロンドン**

ロンドンは2012年以降、総合ランキング1位を維持している。**居住、環境**以外は全て3位以内に入っており、総合力が非常に高い都市であるといえる。

ロンドンは、2012年のオリンピックに向けた都市整備や文化イベントの開催等により、その都市総合力を大きく伸ばしたが、オリンピック以降も、都心部やオリンピックパーク周辺での都市開発プロジェクト、ロンドンの東西を結ぶ鉄道の建設など、長期的視点に立った都市づくりが継続している。今後もますます人口が増加すると予測されている世界都市ロンドンが、その都市総合力をどこまで伸ばすのかが注目される。



強み

最初のGPCIの発表(2008)以降、ロンドンが常に1位を維持している分野が、**文化・交流**であり、全ての

指標で高い評価を得ており、ロンドンの強みの源泉といえる。中でも、**美術館・博物館数(1位)**、**外国人居住者数(2位)**、**海外からの訪問者数(1位)**などは、特に評価が高い。

図5-4 海外からの訪問者数



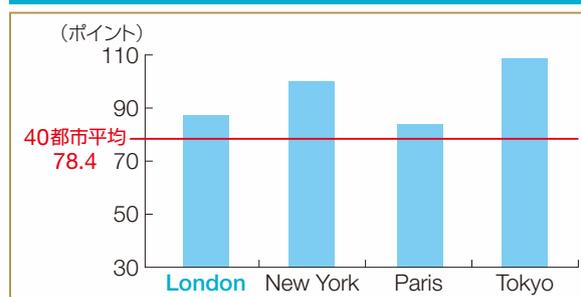
もう一つの強みが**経済**である。特に**GDP(3位)**、**証券取引所の株式時価総額(4位)**、**優秀な人材確保の容易性(2位)**などの指標は、常に高いスコアを維持している。

また、**環境**の順位がニューヨークと比べて高い点も、ロンドンが総合ランキングで1位を維持している要因の一つである。

弱み

総合力の高いロンドンにおいて、最も伸び悩んでいるのが**居住**である。これは先進国の主要都市に共通してみられる傾向であるが、「居住コスト」が高いことが主たる原因である。**賃貸住宅平均賃料(37位)**や**物価水準(29位)**など、40都市中の下位5位以内に入っている指標も複数あり、都市の磁力が高まることによる負の影響が表れている。

図5-5 物価水準





世界に最先端トレンドを発信しつづける **ニューヨーク**



2012年に総合ランキング1位の座をロンドンに明け渡して以降、4年連続で2位を維持している。

研究・開発や**文化・交流**、**経済**はそれぞれ3位以内に入っているものの、**居住**や**環境**、**交通・アクセス**の評価が低い。

ロンドン(1位)とのスコア差は年々広がってきているが、今後の人口増加も踏まえながら都市改造を続けていけば、再び1位の座に振り返り咲くことも十分あり得るだろう。

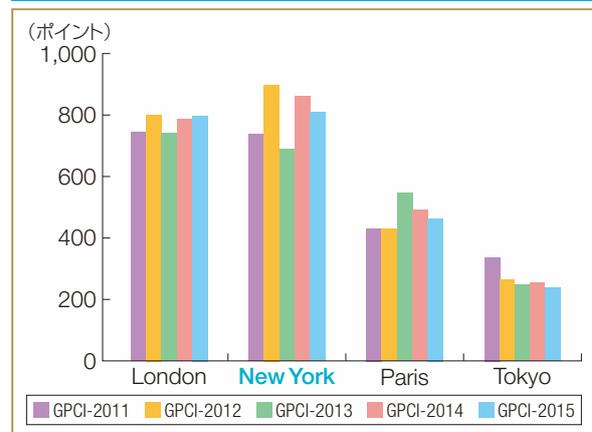
強み

最大の強みである**研究・開発**では、**世界トップ200大学**(1位)、**研究開発費**(1位)、**研究者数**(2位)などで高い評価を得ており、2位の東京を大きく引き離している。

また、**コロンビア大学**や**ニューヨーク大学**などの世界有数の教育機関が立地しており、「**研究集積**」の評価も高い。

また、**文化・交流**においても、**ブロードウェイ**を有する**ニューヨーク**は、**劇場・コンサートホール数**で1位を獲得している。その他にも、**アーティストの創作環境**や**コンテンツ輸出額**も1位であり、**文化の集積**が強みとなっている。

図5-6 世界トップ200大学



弱みである**居住**において順位を6つ上げ、23位となった。これは、2008年の世界金融危機後に落ち込んだ**完全失業率**(26位)が大幅に改善したことや、**外国人学校数**(15位)、**小売店舗の充実度**(3位)などの「生活

表5-1 賃貸住宅平均賃料 (USドル/月)

London	New York	Paris	Tokyo
3,260	4,300	2,280	2,490

※「中価格帯」の「家具なし3部屋アパートメント」の値

弱み

利便性」の高さが評価されたためである。

しかし、**物価水準**(33位)や**賃貸住宅平均賃料**(39位)の高さなどが影響し、**居住**は依然として**トップ4都市**の中でもっとも低い順位にとどまっている。



文化・観光の魅力あふれる花の都 **パリ**

パリは2008年から継続して総合ランキング3位を維持してきた。トップ4都市の中では**経済**は最も弱い**が、居住、交通・アクセス、文化・交流、研究・開発**はそれぞれ5位以内と、安定的な強さをみせている。

パリ市中心部は開発規制が強いため劇的な変化は起こりにくい**が、都市圏レベルでは、大規模な開発プロジェクトやインフラ計画が進行中である。パリ中心部の美しい景観を守りながら、周辺部において必要な都市機能の改善が行われていけば、パリの都市総合力は大きく向上する可能性もある。**



強み

パリの強みは、**居住**および**交通・アクセス**が1位、**文化・交流**が3位という高い順位に位置していることである。

先進国の主要都市では、**経済、文化・交流**でスコアが高い場合、逆にコストが高騰し**居住**のスコアを下げることが多い**が、パリは居住でも1位である点が特徴的である。これは、総労働時間(1位)、人口当たりの医師数(2**

位)、飲食店舗の充実度(5位)といった

多くの指標で高いスコアを得ているためである。

また、**交通・アクセス**に関しては、「国際交通ネットワーク」における**国際線直行便就航都市数(2位)**や、「都市内交通サービス」における**公共交通(鉄道)の駅密度(1位)**などの評価が高い。

文化・交流については、**主要な世界的文化イベント開催件数(1位)、美術館・博物館数(2位)、ホテル総数(1位)**など、幅広い指標で高い順位を得ている。

表5-2 ホテル総数(軒)

London	New York	Paris	Tokyo
742	509	1,241	398

弱み

パリの弱みは**環境**であり、**経済**もトップ4都市の中では**相対的に弱い。**

環境は**SPM濃度(29位)、SO₂濃度・NO₂濃度(26位)**の順位が低い。**経済**では、5位以内に入っている指標が**一人当たりGDP(4位)、世界トップ300企業(3位)**のみであり、この分野を牽引する指標が少ないことが上位2都市と異なる点である。また、**法人税率(28位)**や**政治・経済・商機のリスク(25位)**も順位を伸ばせておらず、**経営環境**としての魅力を十分に提供できていないとはいえない。

図5-7 SPM濃度





オリンピックを起爆剤として都市力の向上を目指す 東京



総合ランキングでは、最初のGPCIの発表(2008)以降、4位を維持している。5位のシンガポールとのスコア差は年々縮小しているものの、アジア1位の座は堅持している。

トップ3都市と比べると、文化・交流や交通・アクセスが弱みとなっているが、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、都心部での再開発の加速化や羽田空港の発着枠拡大などが見込まれており、これまでの弱みを強みに変えることができれば、さらなる順位の向上が期待できる。

強み

経済指標の1つである、世界トップ

300企業(2位)は、北京に抜かれた2014年以降もスコアが減少し続けている。しかし、依然として経済では世界トップの地位を維持している。

海外からの訪問者数(9位)が年間800万人を超え、留学生数(3位)も5万人に達したため、文化・交流については、順位を一つ上げて5位となった。これらの国際交流の活発化の背景としては、2012年頃からの急激な円安傾向や、中国や東南アジアからの観光客・留学生が増加していることが挙げられる。

図5-8 世界トップ300企業

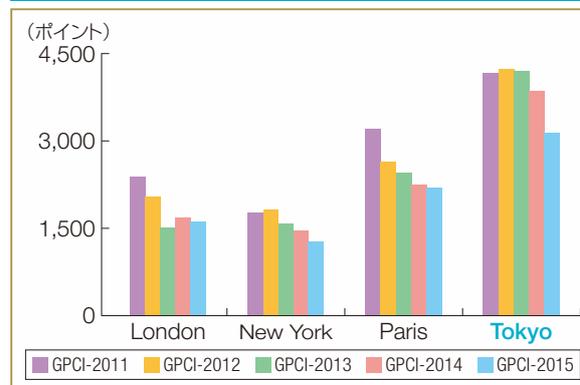
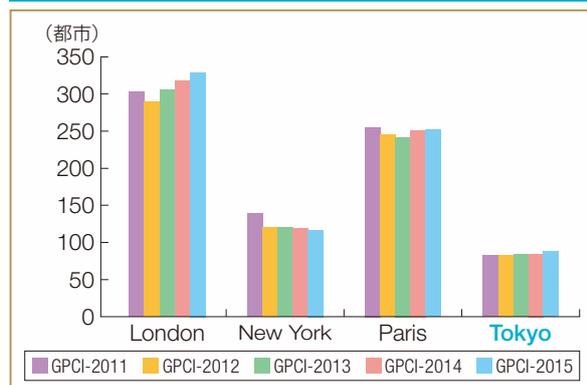


図5-9 国際線直行便就航都市数



弱み

環境は、再生可能エネルギーの比

率(32位)やCO₂排出量(30位)、リサイクル率(27位)などの評価が低い。

交通・アクセスも伸び悩んでいる。国際線直行便就航都市数(25位)や国際線旅客数(12位)は依然として低水準にあるが、政府は年間2,000万人の訪日外国人数を目標としてさまざまな政策を実行しており、これらの指標は今後改善されることが期待される。

2015年10月

編集・発行

一般財団法人 **森記念財団 都市戦略研究所**

大和 則夫、佐々木 剛二、浜田 祐子、伊藤 佳菜、王 瑩瑩

装丁・印刷：日経印刷株式会社

本ランキングに関するお問い合わせ：

info@mori-m-foundation.or.jp

一般財団法人 森記念財団 都市戦略研究所

www.mori-m-foundation.or.jp

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目5番1号 虎ノ門37森ビル

TEL.03-6406-6800

COPYRIGHT©2015 The Mori Memorial Foundation. All Rights Reserved.
このパンフレットを許可なく複製・頒布することを禁じます。

Global Power City Index 2015

- 1 London
- 2 New York
- 3 Paris
- 4 Tokyo
- 5 Singapore
- 6 Seoul
- 7 Hong Kong
- 8 Berlin
- 9 Amsterdam
- 10 Vienna
- 11 Frankfurt
- 12 Sydney
- 13 Zurich
- 14 Los Angeles
- 15 Stockholm
- 16 Toronto
- 17 Shanghai
- 18 Beijing
- 19 Copenhagen
- 20 Vancouver
- 21 San Francisco
- 22 Madrid
- 23 Boston
- 24 Osaka
- 25 Brussels
- 26 Barcelona
- 27 Chicago
- 28 Geneva
- 29 Milan
- 30 Washington, D.C.
- 31 Istanbul
- 32 Taipei
- 33 Bangkok
- 34 Kuala Lumpur
- 35 Fukuoka
- 36 Moscow
- 37 Mexico City
- 38 Sao Paulo
- 39 Mumbai
- 40 Cairo